

第3回 東海村農業振興計画策定委員会会議録

1	開催日時	平成27年3月6日(金) 13時30分から15時10分まで
2	場所	役場行政棟5F 原子力視察研修室
3	出席者	別添委員名簿のとおり(25名)
4	欠席者	根本(一)委員, 鈴木委員, 根本(正)委員, 藤戸委員, 砂金委員, 仲田委員, 糸賀委員 7名
5	公開又は非公開の別	公開
6	非公開の理由	
7	議題	(1)東海村農業振興計画の策定に向けて(素案)について (2)その他
8	配布資料	別添のとおり
9	発言内容	<p>(1)東海村農業振興計画の策定委にむけて(素案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業を村政の柱として位置付けているにも関わらず農住混在化の弊害が多い。土埃問題や農薬使用などの居住環境の問題も顕在化している。村としてベッドタウンにするのか農業を真剣に守るのか, 明確な計画が必要である。 ・素案の中にJCO事故云々の記載があるが, もう過去のことであり, いつもでも引きずる必要はない。削除した方がよい。 ・国ではTPP問題や米の生産調整の大転換を打ち出している。そのことについても記載すべきである。 ・再生産可能な農業を実現する施策を入れて貰いたい。例えば環境支払等の観点から農家への所得補償を創設したり, 公共施設で農家が気軽に販売するとかの施策を盛り込むべき。 ・東海村の農業, 農地を守るという認識を, 全ての住民に持ってもらうような議論が必要。農業や農地は大事だけど, 農作業の臭いや騒音, 雑草, 虫はゴミンだという雰囲気がある。総論賛成で各論反対ということでは, 農業者の立つ瀬がない。住民と農家が話し合える場ができないのか。地域で農業を支えるという意識がなければ, 農作業も満足にできない。 ・農家の立場で言えば, 社会の流れの中でTPPも止むを得ないという気持ちはある。これまで農政は国の政

	<p>策に翻弄され続けてきた歴史がある。農業を衰退させないためには、地産地消の概念が広まって生産者は丹精込めて野菜を作り消費者は安心な農産物を買うという当たり前のことを、定着させていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な売り方も必要。インターネットの活用も一方通行ではなく、多彩な取組を盛り込んでほしい。 ・農地所有者は農地法で維持管理の義務を負わされているが、現実にはそれに見合う収益は得られない。維持管理に要する経費を環境支払という形で支援できないものか。 ・農地の中に家を建てたから仕方がないが、砂塵が酷い。家電品に故障が発生するくらい凄まじい。 ・村では麦の種子を配付しているが、入り作の人の土地には配付していない。このあたりは改善すべきではないのか。
10 結 果	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の素案はあくまでも「目次」的な内容に過ぎない。次回の委員会には、委員からの意見や事務局の意見等も入れて、具体的な内容を記載したもので検討することとなった。 ・なお、新年度は更に3回の委員会を開催し、その間に座談会やワークショップなども実施して、農家の意見を十分に反映させ、9月までには計画を樹立することとした。